

一般財団法人伊勢神宮崇敬会
令和7年度運営方針及び事業計画

運 営 方 針

元日に第六十三回神宮式年遷宮の準備を担う神宮式年造営庁が発足し、5月には遷宮諸祭の始まりとなる山口祭・木本祭が、6月には御用材を伐り出す御杣始祭が執り行われる。国家国民の重儀である神宮式年遷宮を会員はもとより多くの国民に伝えとともに、日本に根ざす伝統文化を次の世代へと受け継いでいけるよう神社本庁・地元関係者との連携を強化して神宮奉賛活動の啓発に努める。

会員制度においては、現行の会員制度に移行して30周年を迎える。お伊勢さまとの懸け橋として、神宮はもとより神宮があることで培われた伊勢の風習を体感していただけるよう会員に向けた事業を行う。全国の神社関係者の協力のもと新穀感謝祭をはじめ恒例事業及び新規事業を行い、崇敬心の更なる涵養を図る。

神宮会館の運営では、宿泊者を対象に毎日行っている「早朝参拝案内」を中心に、朝の清々しい内宮を深く体感いただけるよう努める。「参宮の宿」としての接客に努めるとともに、神宮崇敬心の涵養に応えるべく職員資質の向上をはかる。

事 業 計 画

1. 文化及び芸術の振興

① 神宮125社まいり

本年度で25期目に入る。神宮で正宮・別宮・摂社・末社・所管社としてお祭りされる全てのお社に参拝し、様々な形で営まれる神宮の神祭りの姿とその心を学ぶ。年5回のコースに分けて行い、どのコースからでも参加ができる。非会員は参加不可。

・各巡拝日程（4月15・16日、5月14・15日、9月29・30日、10月21・22日、2月25・26日 定員各25名）

② 倭姫命ご巡幸地めぐり

倭姫命の御事績や教えについて学び、倭姫命がお定めになったと伝えられるお社に参拝し、旧蹟などを巡り、約2,000年を遡る神宮の原点に思いを致し崇敬心を深める。参加は神宮125社まいり全コース修了の会員に限られ、非会員は参加不可。

人気事業で、参加希望が多数のため、今年度は従前2回だったものを3回とする。

・初夏コース日程（5月8・9日 定員25名）
・秋コース日程（10月28・29日 定員25名）
・春コース日程（3月2・3日 定員25名）

③ 歩いてお伊勢まいり(新規事業)

各事業参加者より、徒歩を中心とした散策巡拝を希望する声が多数あり、その声に応えるべく、徒歩による巡拝を中心とした事業として今年度より開催する。今年度は小俣町離宮院公園から外宮までの参宮街道と外宮から内宮までの古市街道を散策しながら、周辺の神宮125社を含め巡拝する。（5月28・29日 定員25名）

④ 神宮ばら園の運営

昭和 62 年 10 月に開園した神宮ばら園を運営して春と秋に無料開園し、訪れる方々に安らぎの場を提供する。また皇室敬慕の心を育むため皇族のお名前を冠したプリンス・ローズを育成し公開する。開園期間外にも関心を寄せていただけるよう、コンテンツ配信用プラットフォーム「note」に於いて開花状況や育成記録等の情報を発信する。

⑤ 小笠原流礼法教室と外宮朔日まいり

小笠原流弓馬術礼法三十一世宗家小笠原清忠氏を講師に招き、歴史の中で洗練された礼法を学び、翌日は日別朝夕大御饗祭が毎日ご奉仕されている外宮に早朝の朔日参りをして神楽を奉納し、併せて神宮の附属施設はじめ近隣の文化施設を見学することで、日本文化への理解を深め、神宮崇敬の心に繋げる。(5 月 31 日・6 月 1 日、8 月 31 日・9 月 1 日、2 月 28 日・3 月 1 日の年 3 回 定員各 15 名)

⑥ 神宮祭典の奉拝

2000 年に亘り営まれているお祭りを間近に奉拝し、そこに受け継がれる神祭りの心を体感する。夜間に行われる 6 月・12 月の月次祭(内宮)と神嘗祭(外宮)の由貴夕大御饗をはじめ、年間恒例のお祭りを奉拝する。

⑦ 第 48 回神恩感謝祭

神宮の六月月次祭に合わせ、神宮の広大なご神恩に感謝を捧げ、さらなる皇室の弥栄、国家の繁栄、会員各位の安寧隆昌を祈るお神楽を奉納する。併せて神宮に関する講話、別宮の由貴夕大御饗の奉拝なども行う。奉拝する別宮を変えた同内容で 2 回開催して多くの参加を募る。(6 月 18・19 日、6 月 24・25 日 定員各 80 名)

⑧ 第 7 回神宮奉納弓道大会

全国の愛弓家より「一度は伊勢の神宮弓道場で弓を引いてみたい」という切望に応え、弓道技能の向上と弓友相互の親睦を図り、弓道の発展に寄与することを目的に大会を開催する。(7 月 5 日)

⑨ 第 54 回初穂曳への参加

神嘗祭に合わせて全国からの初穂米を募り、伝統文化行事「お木曳」の継承を目的に行われる初穂曳の行事に参加して初穂米を神宮に奉納し、その夜に行われる外宮の由貴夕大御饗を奉拝する。〔神社本庁協力〕(10 月 15 日)

⑩ 第 71 回伊勢神宮新穀感謝祭

新穀への感謝を捧げる国民総参宮との趣旨を掲げ、全国から多くの参列者を迎えて特別参拝とお神楽奉納を行う。併せて農業をはじめとした産業の振興に貢献された功労者の顕彰を行い、さらなる農事発展を祈念する。(11 月上旬～12 月上旬)

⑪ 第 64 回伊勢神宮奉納書道展

毎日新聞社との共催で、1400 年以上に亘り育まれ洗練されてきた書道の振興を図り、書の芸術性を昂揚する。全国各地から作品を公募し、内宮饗膳所において展示のうえ優秀作品を表彰する。(展示期間 11 月下旬～12 月上旬、表彰式 11 月 29 日)

⑫ 令和 7 年の御礼まいり

神宮の十二月月次祭に合わせ、神宮の広大なご神恩のもとにその 1 年をお守りいただいたことへの感謝を捧げ、さらなる皇室の弥栄、国家の繁栄、会員各位の安寧隆昌を祈るお神楽を奉納する。併せて神宮に関する講話、別宮の由貴夕大御饌の奉拝なども行う。奉拝する別宮を変えた同内容で 2 回開催して多くの参加を募る。

(12 月 18・19 日、12 月 24・25 日 定員各 50 名)

⑬ 第 69 回神宮奉納大相撲

日本相撲協会協賛のもと、国技である大相撲の取組を通じて守り伝えられた「心・技・体」の神髄を披露する。横綱の手数入り、また神宮相撲場ではトーナメント戦等を行う。

(3 月 29 日)

2. 児童及び青少年の健全育成

① 第 16 回伊勢と神宮 伝統文化体験教室

全国の小学生とその保護者を対象に、伊勢を中心に育まれた伝統文化を学び、歴史や文化を尊ぶ健全な心の育成を目的とした体験型教室を開催する。神宮の神事でも行われる火鑽具による火起こしや、伝統文化に因んだ工作の体験を行う。同内容で 2 回開催する。(8 月 8 日、8 月 22 日 定員各 30 名)

② 第 63 回伊勢神宮奉納全日本学生弓道大会

全日本学生弓道連盟・神宮司庁・三重県弓道連盟との共催で、全日本学生弓道王座決定戦第 73 回男子の部・東西学生弓道選抜対抗試合第 71 回男子の部・全日本学生弓道女子王座決定戦第 49 回女子の部・女子東西学生弓道選抜対抗試合第 49 回女子の部を開催する。

(11 月下旬)

③ 第 20 回神宮奉納お伊勢まいり作文コンクール

全国の小学生を対象に、神宮参拝に際して伊勢の風土や文化に触れた感想や思い出などの作文を募集し、国語の表現力向上や情操教育に寄与する。なお、優秀な作品を選定して表彰を行う。(応募期間 7 月 1 日から 10 月 31 日 表彰式 3 月 7 日)

3. 会員組織の拡充と展開

① 入会促進

現行の会員制度に移行して 30 周年を迎える。事業内容を見直し、より多くの会員に参加いただけるような事業内容を展開する。また会員同士の絆を深め会員紹介による新規入会の増加に注力する。

② 第 30 回会員研修会

夜間参拝、神宮に関する講話、参拝作法講習などを通して、神宮への崇敬心や知識理解を幅広く深めるための研修を行う。本年は外宮御船代祭の奉拝を予定する。

(9 月 18・19 日 定員 50 名)

4. 宿泊、研修施設等の運営

① 神宮会館の運営

お伊勢まいりの宿として、早朝参拝案内をはじめとする参宮促進や御神徳の宣揚に努め、

神宮の伝統ある文化や芸術の魅力をより多くの方々に知っていただけるよう努める。伊勢の歴史と美しい文化をお伝えするため、心温まる接遇に努める。

(ア)第 25 回八朔まいりとお水汲み

伊勢では八朔の日（8 月 1 日）に五十鈴川の水を汲んで瀧祭神に参拝し、その水を神棚に供えて一年の家内安全・無病息災を祈る風習があり、それに倣ったお参りをしてご加護を祈りお水を持ち帰る。（7 月 31 日・8 月 1 日 定員 70 名）

(イ)第 26 回冬至まいりと注連縄作り体験

冬至の日に神宮に参拝し、宇治橋大鳥居正面から昇る朝日を拝んで自然に対する感謝と畏敬の念を深める。また、伊勢では一年中玄関に注連縄を飾り無病息災を願う風習があり、その注連縄作りを体験し新年に向けて家内安全を祈る。（12 月 21・22 日 定員 80 名）

(ウ)還暦・厄年まいり

人生儀礼の中で特に節目の年となる還暦や厄年を無事迎えたことへのご神恩に感謝し、神宮参拝とお神楽の奉納を行う。還暦の方には健康招福のお守り、厄年の方には厄祓いのお守りを頂く。（2 月 6・7 日 定員 50 名）

(エ)第 35 回お伊勢さん正宮・別宮まいり

その年の豊穰を祈る神宮の祈年祭に合わせて、内宮・外宮の両正宮と全別宮を 1 泊 2 日で巡拝し、別宮の祭典奉拝や神宮の文化施設見学も行う。希望者は巡拝するお宮の御朱印も受けられる。（2 月 17・18 日 定員 30 名）

5. 会報、図書その他印刷物の編纂と刊行

① 会報誌「みもすそ」

皇室・神宮に関する記事、伊勢志摩の歴史・文化の話題や本会行事などの情報媒体として、各会員に配布する。創刊から 30 周年を迎え 4 月で第 114 号の発行となる。（年 4 回発行）

② 叢書

神道有識者に依頼し御神徳の宣揚、神社神道の昂揚を図るための叢書を刊行する。
叢書 29『神宮伝奏について（仮題）』

学校法人海陽学園海陽中等教育学校教諭 渡辺 修氏

6. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

① 昼食の利用促進

神社関係者を中心に働きかけ、お神楽奉奏の団体には直会饗膳も提案する。

② 物品、記念品の販売

会館利用者並びに崇敬会会員へ記念品・特産品の販売並びに木製品・参宮記念品の謹製・頒布を行う。また「伊勢の神宮 ISE-JINGU KOYOMI」（カレンダー）を神宮監修のもと発行する。

③ 研修施設及び神宮相撲場の利用促進

講堂（大ホール・会議室）及び神宮相撲場の利用促進を図る。

④ 神宮参拝者駐車場の運営

内宮前の渋滞緩和の一助として、神宮会館横に隣接する立体駐車場を運営する。

⑤ コインロッカーの運営

宇治橋前にコインロッカーを設置し、内宮参拝者の便宜を図る。

⑥ 太陽光発電事業の運営

我が国のエネルギー政策であるCO2排出削減や再生可能エネルギー導入拡大への協力を行い地球環境保護に貢献するとともに、神宮会館経営の一助とする。

⑦ 神社関係者大会等に出向

各地で開催される神社関係者大会等に出向き、本会の広報を行う。

⑧ スポーツ及び文化活動への助成

行政を含めた協賛・後援依頼団体の行事及び事業の助成をする。

⑨ 参宮案内所における案内

神宮の参宮案内所(宇治橋前)に職員を派遣し、神宮に関する案内を行う。

以 上